



熱中症対策には、こまめな水分補給が必要です。日本は自動販売機の普及率が高く、ペットボトルの飲み物を手軽に購入することができますが、水道水をそのまま飲むことができる世界でも珍しい国です。

水道水の給水スポットの設置も広がってきていますので、マイボトルを利用することで、プラスチックごみの削減だけでなく、飲み物代の節約にもなります。

※自動販売機で毎日1本(150円)の飲み物を購入した場合、1か月(30日)で4,500円、年間で54,000円

地球にもお財布にも優しい水道水。

ティーバッグなどでお気に入りの飲み物にして持ち歩くのもいいですね。

DUCTILE TIMES編集部

施工情報システムの 利便性が向上しています

「施工情報システム」は、水道工事の施工において、IoT技術を活用し、事業者様にとっては、品質管理の維持・向上を図ることができ、工事会社様には、施工管理を効率化することができるシステムです。また、過去のDMで紹介した「サイトチェッカー」や「サイトアングル」を「施工情報システム」と連携させることで、さらに品質管理と利便性が向上します。

契約のご希望やデモンストレーション実施のご要望等がございましたら、お気軽に弊社営業担当者までご連絡ください。



お知らせ 下水道展'22東京

開催期間：2022年8月2日(火)～5日(金)
於：東京ビッグサイト(東展示棟1・2・3会議棟)

「下水道展'22東京」に弊社は圧送管路調査機器CSカメラ「スネークくん」を出展いたします。是非弊社のブースにお立ち寄りください。お待ちしております。



会津若松市上下水道局

IoT活用推進モデル事業の実施について ～IoT技術を活用した工事施工管理～



本市では水道水を将来にわたって安全・安心に供給していくために、デジタル技術を活用し水道技術を維持していくことが重要であると考え「施工情報システム」を導入しました。

この間令和2年度に公民連携による実証実験を行い、令和3年度から一部の発注工事で本システムを活用し工事施工管理を行っております。本市の場合、公側が率先して水道技術分野でのデジタル化を推進するとの理念から、システムに係る費用については、発注者側で負担し、受注者へそれらを貸与する方式を採っています。また、この方式については、厚生労働省の「水道事業におけるIoT活用推進モデル事業」に採択され、令和4年度から交付金事業として取り組みを進めています。

これまでの検証において、デジタル技術の活用により若手技術者の確保や水道工事への関心を期待されることから、今後も引き続き公民連携して水道事業の持続性と促進に繋げていきます。



(会津若松市上下水道局 上水道施設課 主任技査 木村様)

施工情報システムの現場視察 「全国管工業協同組合連合会」



この度、青森県八戸市を訪問し、八戸圏域水道企業団様、八戸管工事協会様、(株)クボタの協力をいただき、施工情報システムの現場視察、説明会及び意見交換会を行いました。

書類作成作業の効率化に加え、施工品質向上にも寄与するシステムであり、特にサイトチェッカーによるゴム輪位置の自動測定は、継手管理の効率化と信頼性を大きく向上させるものであると感じました。

今後、IoT活用は水道工事現場においてもスタンダードになっていく時代であり、事業者・工事業者双方にメリットのある同システムのさらなる発展に期待したいと思います。



(全国管工業協同組合連合会 藤川会長(左写真中央))